

超常現象や疑似科学的事項の信奉度・関心度と YG性格検査との相関に関する研究

織 田 潤 二

I. 緒言

昨年度、超常現象や疑似科学的事項について、因子（下位尺度）やアンケート項目の設定の妥当性、及びその信奉度などについて研究を行った（織田 2023）。いわゆる超常現象や疑似科学に関する書籍やテレビ番組、商品等が近年も数多く見られ、すでに報告したように、本学学生たちの興味・関心も少なくない。

超常現象等を巡る近年の情勢において、例えば神や仏を信じる人は、現代の日本社会では相当数いることが、宗教意識に関する世論調査（NHK放送文化研究所 2020）で報告されている。神仏を含めた超常現象について、まず1つのピークは1970～80年代であり、霊能力やスプーン曲げに代表される超能力ブームが起り、その背景には高度経済成長が終わりオイルショックや公害問題などによる社会不安が増したことが挙げられる（NHK放送文化研究所 2020）。1990年代には、オウム真理教事件などによりいったん終息したかに思えた信奉が、2000年代になると再び増加し、とりわけそれは若年層や中年層による信仰の上昇によっている。そこではメディアを通して「スピリチュアル」という言葉が広まり、宗教的なものによって悩みや疑問を解決に導いていった状況と関係している可能性がある（NHK放送文化研究所 2020）。その後、SNSの普及による炎上騒ぎや、放送や報道におけるコンプライアンスの

強化が求められるようになる一方で、インターネットにより、信奉者は自説を支持する情報のみに選択的に接触する状況が生み出されている（菊池ら 2019）。

そこで、本研究では、超常現象等に関する調査と同時に性格検査を実施し、個人の性格特徴と信奉度や関心度との相関について、検討・研究することを目的とする。なお、本論考の投稿にあたり、香川短期大学研究倫理審査申請を行い、令和6年1月5日付で承認を得ている。

II. 研究内容と研究方法

1. 超常現象等に関するアンケート項目について

アンケート項目（因子と下位尺度）については、先行研究で昨年度調査したもの（織田 2023）と同じ6因子・36項目を使用し、また文章表現や項目の掲載順序も同様のものを用いて実施したく表1＞。その理由は、織田 2023にあるように、超常現象等の先行研究の調査・考察や、自身で行った因子分析結果や因子間相関において、相関係数や負荷量に信頼できる数値が見いだされたためである。また、尺度段階も昨年度と同じ9件法を用いた。

2. 個人の性格特徴の調査

（1）先行研究について

個人の特性と超常現象^[註1]の信奉度の関係については、これまでも年齢や学歴・文系理系、性差など、様々な観点からの研究（中村 1995・水野ら 1996・坂田ら 1998・松井 2001）がなされている。そのなかで共通して論じられていることの1つが年齢であり、神館（2003）は、「お守りの力」を信じ

令和6年1月19日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 生活文化学科

TEL 0877(49)5500 FAX 0877(49)5252

Email odaj@kjc.ac.jp

表1 本研究で使用した因子（下位尺度）・アンケート項目：〔6因子・36項目〕

因子	系内 番号	アンケート項目 及び 文章表現	略称 〔8文字以内〕
1	旧来宗教 迷信・	1 神社などにお参りすると願い事がかなう	神への願い事
		2 お守りやお祓いには効力がある	お守りお祓い
		3 仏滅に結婚式を行うのはよくないことである	仏滅の結婚式
		4 悪い事をしたり，神仏に不敬を働くとばちがあたる	ばちがあたる
		5 極楽（天国）や地獄は存在する	極楽と地獄
		6 呪いやたたりは存在する	呪いやたたり
2	霊	1 死者の霊は存在する	死者の霊
		2 体は死んでも魂は生き続ける	魂の存在
		3 輪廻転生（生まれ変わり）はある	輪廻転生
		4 いわゆる「心霊現象（含：写真・動画）」は本当にある	心霊現象
		5 いわゆる「霊能力・靈感」は存在する	霊能力・靈感
		6 前世や来世は存在する	前世と来世
3	占い・予知	1 占星術や四柱推命などの，本やテレビの占いはよく当たっている	占星術
		2 手のひらの生命線が長いと長生きする	手相
		3 タロットカード（西洋）や易（東洋）による占いはよく当たる	タロットカード
		4 血液型による「性格診断」は当たっている	血液型性格診断
		5 未来を予測・予言できる人がある	予言
		6 夢が現実になるのは予知能力の1つである	予知夢
4	超能力	1 念力で物体を動かしたり曲げたりすることができる人がある	念力
		2 透視ができる人がある	透視
		3 テレパシーは存在する	テレパシー
		4 未解明のエネルギーを使える人がある	未解明エネルギー
		5 「気」などの精神の力で病気を治すことのできる人がある	気
		6 指や皮膚で，物の色や文字が分かる人がある	眼以外の文字認識
5	超生命文明 宇宙人・	1 UFOは実在する	UFO
		2 政府は宇宙人に関する事実を隠している	宇宙人の隠蔽
		3 UMA（未確認生物：ビッグフット・ネッシー・ツチノコなど）は実在する	UMA
		4 古代文明には宇宙人が関係している	古代文明と宇宙人
		5 ムー大陸やアトランティス大陸は存在した	ムー大陸
		6 地球以外の星に知的生命体は存在する	地球外知的生命体
6	健康・医療	1 マイナスイオンは健康によい効果がある	マイナスイオン
		2 コラーゲンを経口摂取すると肌によい効果がある	コラーゲン
		3 「よい言葉や音楽」により，水の結晶が変化したり植物がよく育つようになる	言葉や音楽の効果
		4 水晶や特別な鉱石を身に付けると，健康によい効果がある	水晶パワー
		5 現代の医学以外に，ガンを治せる特別な治療法が存在する	特別なガン治療
		6 特別な「水」には，人を健康にしたり病気を治したりする効果がある	特別な水

る高校生の割合が高齢者の約2倍であることを，また，NHK放送文化研究所（2020）は，「おみくじ」「占い」などの宗教的行動が，年齢層が下がるほど

多いことを明らかにしている。

学歴と信奉度については，有意差がなかったこと（松井 2001），文系・理系による違いについては，

宗教や終末観・運命感の関心度が文系学生の方が高いこと（水野ら 1996）が報告されている一方、文理に差がないと言う報告（坂田ら 1998）もある。

信奉度の男女差については、女性の方が男性より「迷信」「霊」「超能力」への信奉度は高いこと（坂田ら 1998）、男性は疑似科学系を信じ、女性は占い系を信じる傾向がやや強いこと（松井 2001）、またすべての下位尺度で女性の方が高い超常信奉を示したこと（菊池 2013）などが報告されている。

個人の性格特徴と超常現象の信奉度の関係についてもすでに多くの研究がなされ、野村（1989）は、俗心の心理機制研究において、自我の弱さや自己を投射的に外在化する「権威的パーソナリティ（社会的性格の1つ）」の一特徴として、迷信的所信に言及している。高橋（1996）は「社会観」「科学観」「将来展望」と超常現象への関心では、「社会に対する否定的態度」のみが有意であるとしている。また、水野ら（1996）も、心理傾向を「享楽主義」「無気力」「自信喪失」などの8因子に分け、宗教やオカルト関心との相関を調べ、「嫌社会」と超能力系に最大の相関係数0.20が現れたことを示した。

唐沢（2010）は、情報処理スタイルとして「合理性」「直感性」からアプローチし、占い系では双方ともに有意、疑似科学系では合理性のみが有意、そして旧来宗教系ではともに有意ではなかったとしている。諸井ら（2016b）は、日常的思考スタイルとして「批判的思考」「帰属複雑性」と超常現象観を重回帰分析し、占い、未知存在、霊的存在、吉凶では有意な規定因を得たが、超能力、科学信奉では得られなかったとしている。菊池（2019）の研究においても、全体として決定係数は低いが、「直観性」と超常信奉の複数のカテゴリーで正の関連が示された。また、山本（2019）は剥奪状態（貧困など社会的に不利な状況）にある人や権威主義的な人ほど、超常現象を科学的であると評価する傾向を指摘した。

このように、「権威的」「直感性」「嫌社会」「批判的思考」等、さまざまな性格特性とその用語を用いてこれまで多くの研究がなされてきたが、その個人の性格特性を測る尺度（アンケート項目の内容・表現・数など）は統一されたものではない。

（2）本研究調査について

これまでの性格特性についての研究では、川上（2016）が言うように、YG（矢田部ギルフォード）性格検査、エゴグラム、UPI（University Personality Inventory）やビッグファイブ尺度を用いたものなど様々である。

そのなかで、本研究ではYG性格検査を用いた。YG性格検査については、その尺度構成等への批判がある（續ら 1970, 1971）。また近年は、和田（1996）の論文を元に作成されたビッグファイブ尺度も多くの場合で用いられてはいるが、7件法や4・5件法が主で尺度算出等が統一されておらず、また質問に逆転項目があり被験者自身が診断できないこと、規定の質問紙がないことなどにより使用が難しいと判断した。一方、YG性格検査は中村（1995 愛媛大）も用いており、質問数はやや多いが、「はい」「?」「いいえ」の3通りで答えられること、被験者自身で比較的容易に採点・判定できること、また、臨床の場面に限らず教育や産業など日本の幅広い分野で採用されている検査のひとつであり、謹製の検査用紙も入手しやすいため、本研究で用いることとした。

3. 研究の方法

（1）アンケートの実施・対象

2022年5月から2023年10月に、A短期大学の学生を対象に質問紙を配付し、表1に示した36項目を用いて、その信奉度を9件法によりアンケートを行うとともに、興味関心のある項目の記号に○を付ける方法により、その興味関心度について調査を実施した。また、同時にYG性格検査〔日本心理テスト研究所（株）〕を行った。

学生各自の信奉度等とともに、YG検査結果については、12の性格特性、A～Eの系統値と判定型を調べた。調査・回収については無記名であり、アンケート結果は研究のためのみに用い成績評価に無関係であること、提出も任意であることを、用紙と口頭の両方で説明を行った。

結果、回答数181、信奉度とYG検査結果の有効回答数162（男26人・女136人、年齢18～25歳・平均年齢19.1歳・年齢の標準偏差0.97）、興味関心とYG検査結果の有効回答数87（男16人・女71人、年齢18～

23歳・平均年齢18.6歳・年齢の標準偏差0.92)を得た。実際に用いたアンケート用紙を資料1として後掲する。

(2) 有効回答の選定基準

有効回答の選定・除外については、以下のように行った。総回答181のうち除外したものは、①全36項目の9件法での回答で、ばらつきが小さい(標準偏差:SDが1.0未満,かつ9~1の回答において最大値と最小値の差が4以下)もの、②社会人学生等の年齢層の高い(26歳以上)ものである。結果、信奉度・YG検査の有効回答は162となった。そのなかで、興味関心・YG検査については未調査の時期があったため数は減少し、有効回答数は87となった。

標準偏差(SD)の取捨判断の境界値については、先行研究や統計学上の合意ある判断基準を見つけることはできず、本調査の数値を昇降順に並べ俯瞰検討した結果を元に考えたものである。

(3) データ分析の手法〔ソフトウェア〕

相関分析には、清水裕士氏作成のHADを用いた。HADはExcel上で動くマクロプログラムで、統計の理論や細かい説明は最低限にとどめられ、心理統計で使いやすいように設計されている(小宮ら 2018)ためである。また、相関係数は、HADとエクセル内分析ソフトの両方を用い、数値差のないことを確認しながら考察を進めた。

Ⅲ. 研究結果とその分析及び考察

1. 信奉度とYG検査結果の型について

表3に信奉度〔9件法〕とYG検査結果のABCDE等の型との数値を示す。表3の超常現象については、全アンケート36項目ではなく、6因子(1因子:5~6項目)ごとにまとめたの数値と、今回新たに設定した8系統(1系統:3項目)を横軸に表した。この8系統<表2>は、昨年度の研究結果(織田 2023の表4)を細かく分析し、確認的因子分析の負荷量や共通性、同因子間内の相関係数、また、全36項目の探索的因子分析及び相関係数を元に、各系統3項目を抽出したものである。

ここで、表3に6因子・8系統各々の信奉度平均値からの乖離度を数値で示したが、乖離度±1.0以上で上下位30%と、また±0.5以上で上下位40%とほ

表2 8系統〔各系統:⑤以外は3項目〕

8系統		項目	2023年因子番号
①	迷信宗教系	神への願い事	1
		お守りお祓い	1
		ばちがあたる	1
②	輪廻転生系	極楽と地獄	1
		輪廻転生	2
		前世と来世	2
③	靈感系	死者の霊	2
		心霊現象	2
		霊能力・靈感	2
④	占い系	占星術	3
		手相	3
		タロットカード	3
⑤	血液型性格診断	血液型性格診断	3
⑥	超能力系	透視	4
		テレパシー	4
		未解明エネルギー	4
⑦	宇宙人系	UFO	5
		宇宙人の隠蔽	5
		古代文明と宇宙人	5
⑧	健康医療系	マイナスイオン	6
		水晶パワー	6
		特別な水	6

*2023年因子番号

1:迷信・旧来宗教

2:霊

3:占い・予知

4:超能力

5:宇宙人・超生命文明

6:健康・医療

ぼ一致することを、データが正規分布である場合の偏差値と上位下位%の変換計算により確認している。

まず、表2に示したように、8系統には先行研究(織田 2023)の6因子の下位尺度が一部混在しているものがある。これは、以前にも指摘したが、迷信・旧来宗教因子と霊因子の峻別は、先行研究の比較(織田 2023の表3)からも分かるように、非常に難しいためである。

占い・予知因子のなかで、血液型性格診断をわずか1項目で独立させた理由は、菊池(2019)が言うように、他の占いと異なり「日常的事象」「疑似科学」として捉えられる要素が大いに見られるからで

表3 信奉度 [9件法] 平均値との乖離度と検査結果の型

因子名・系統名		YG検査の型						6因子8系統の各信奉度	
		A型	B型	C型	D型	E型	混合型	平均値	SD
		平均型 n=17	不安定積極型 n=37	安定消極型 n=14	安定積極型 n=16	不安定消極型 n=49	混合型 n=29		
6因子	1 迷信・旧来宗教	-0.07	0.05	-0.64	0.05	0.19	-0.07	6.10	1.44
	2 霊	0.27	0.03	-0.77	-0.07	0.14	-0.02	6.41	1.55
	3 占い・予知	-0.26	0.51	-0.11	-0.26	-0.10	-0.11	4.97	1.37
	4 超能力	0.29	0.00	-0.20	0.67	-0.01	-0.42	3.76	1.52
	5 宇宙人・超生命文明	0.26	0.42	-1.04	0.37	-0.13	-0.17	4.53	1.71
	6 健康・医療	0.20	0.14	-0.22	0.69	-0.15	-0.31	4.62	1.35
	上記6因子35項目の計		0.11	0.18	-0.50	0.24	-0.01	-0.18	5.08
8系統	① 迷信宗教系	0.37	-0.07	-0.31	-0.17	0.19	-0.20	6.35	1.65
	② 輪廻転生系	-0.32	0.04	-1.13	0.09	0.40	-0.04	6.51	1.78
	③ 靈感系	0.36	-0.01	-0.42	-0.09	0.02	0.02	6.44	1.83
	④ 占い系	-0.43	0.41	-0.23	-0.15	0.04	-0.15	4.69	1.59
	⑤ 血液型性格診断	-0.30	0.95	0.54	0.11	-0.62	-0.30	5.89	2.43
	⑥ 超能力系	0.50	0.18	-0.33	0.57	-0.04	-0.59	3.62	1.72
	⑦ 宇宙人系	0.13	0.32	-1.34	0.61	-0.06	-0.07	4.24	1.96
	⑧ 健康医療系	0.34	0.20	-0.59	0.39	-0.02	-0.36	4.21	1.65

* 5 宇宙人・超生命文明は、 +0.5以上  -0.5以下
地球外知的生命体を除いた5項目

	性格特徴
A型 平均型	平均的な性格で調和的であり、グループ内でバランスを取るのがうまい傾向がみられる。また、特に目立った問題傾向もみられず、性格特徴を見つけにくい傾向にあります。
B型 不安定積極型	情緒面不安定で、活動的・外向的な傾向がみられる。ただし、環境面や素質面において本人に不利なことが発生すると、パーソナリティの不均衡が現れやすい傾向がみられます。
C型 安定消極型	消極的で情緒安定的な傾向がみられる。根気強さや下準備を整えるのがうまい。ただし、非活動的で内向的なため、内面をつかみにくく、自己主張が乏しい傾向がみられます。
D型 安定積極型	情緒的に安定して、活動的で対人関係も良好な傾向がみられる。気配り上手で協調的にも行動できる。ただし、積極的すぎて攻撃的になる傾向がみられる場合もあり、注意が必要です。
E型 不安定消極型	情緒的に不安定で、非活動的で内向的な傾向がみられる。技術性や創作性を発揮できる。ただし、自分の殻に閉じこもり、不安や不満を感じやすく、精神的に消耗しやすい傾向があります。
混合型	A～E型の性格特徴が弱くなったもので、平均型（A型）により近くなっていきます。

* 日本心理テスト研究所（株）発行：YG性格検査実施・判定マニュアルより抜粋・要約

ある。また、血液型性格判断は、不思議現象の中でも信奉メカニズムを解明するにとどまらず、娯楽的な機能やコミュニケーションに役立つといった関係促進機能も有していることが明らかにされている（松井ら 1994）ためである。

また、36項目のうち「地球外知的生命体」は、今

回、宇宙人・超生命文明因子から除外した。その理由は、因子内での負荷量や共通性の低さとともに、地球に飛来していると言われるUFO・宇宙人と、はるか数千光年先に存在するかも知れない地球外生命体を、学生の何割かは区別しており、後者を疑似科学ではなく科学的と捉えている場合が見られたか

表4 相関表：信奉度 [9件法] とYG検査12項目の相関係数

YG検査 12項目	6因子 ⑧系統	6因子							⑧系統							
		1	2	3	4	5	6	6因子 全35項目 平均	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
		迷信・ 旧来宗教	霊	占い・ 予知	超能力	宇宙人・ 超生命 文明	健康・ 医療		迷信 宗教	輪廻 転生	靈感	占い	血液型 性格診断	超能力	宇宙人	健康 医療
1 D:抑うつ性大		-.025	-.009	-.029	-.031	.085	-.114	-.028	-.079	.047	-.048	.023	-.129	-.025	.092	-.024
2 C:気分の変化大		.076	.096	.074	-.019	.165 *	-.002	.091	.042	.133 †	.051	.124	-.012	.002	.150 †	.071
3 I:劣等感大		.096	.065	.081	-.039	-.027	-.137 †	.011	.097	.117	.035	.095	-.040	-.019	.002	-.033
4 N:神経質		.054	-.018	.062	-.073	.036	-.044	.003	.028	.076	-.067	.070	-.034	-.054	.019	.036
5 O:主観的		-.013	.019	.006	-.028	.143 †	-.093	.009	-.030	.117	-.089	.005	-.126	.000	.152 †	.005
6 Co:非協調的		-.100	-.104	-.127	-.120	-.004	-.219 **	-.156 *	-.170 *	-.024	-.168 *	-.112	-.145 †	-.079	.001	-.147 †
7 Ag:攻撃的		.028	.049	.054	.019	.280 **	.066	.115	-.047	.046	.005	.060	.014	.038	.229 **	.106
8 G:活動的		.053	.064	.097	.091	.158 *	.192 *	.150 †	.022	.054	.065	.033	.206 **	.106	.135 †	.081
9 R:のんき		.036	.051	.138 †	.144 †	.152 †	.157 *	.157 *	.036	.054	.062	.143 †	.162 *	.129	.083	.137 †
10 T:思考的外向		.005	-.029	.013	.044	.009	.011	.012	.004	-.058	.039	.016	.080	.039	-.020	-.061
11 A:支配性大		.214 **	.171 *	.214 **	.225 **	.176 *	.315 **	.304 **	.113	.166 *	.177 *	.199 *	.271 **	.185 *	.132 †	.255 **
12 S:社会的外向		.129	.090	.156 *	.124	.113	.225 **	.193 *	.073	.104	.079	.081	.225 **	.130 †	.102	.137 †

** p < .01, * p < .05, † p < .10

■ : r > +0.2

□ : r < -0.2

* 5 宇宙人・超生命文明は、地球外知的生命体を除いた5項目

らである。

表3からまず分かることは、C型（情緒安定だが消極的・内向的）は、血液型性格診断以外のすべてで信奉度が低く、特に霊や輪廻転生系、宇宙人系では低い。次に、D型（情緒安定で積極的・活動的）には、超能力や宇宙人系、また健康医療に関する信奉度が高い傾向がみられた。また、信奉度尺度で特徴的だとして取り出した血液型性格診断については、B型（情緒不安定だが活動的・外交的）でやや高い信奉度がみられた。

2. 信奉度とYG検査結果との相関について

信奉度 [9件法] とYG検査結果12項目との相関係数^[註2] 及びp値^[註3] を表4に記す。計算に用いた数値は、YG12項目は0～20であり、表内の性格特徴は数値が高い場合を記している。また、信奉度の下位尺度（項目）1つの数値は1から9であるため、6因子（各6項目）の数値は6～54、8系統（各3項目）の数値は3～27となっている。ただし、5宇宙人・超生命文明は、地球外生命体を除いたため5～45、また、⑤血液型性格診断は1項目のため数値は1～9である。

表4より、信奉度とYG検査結果では、まず、多くの因子や系統の信奉度と「支配性大」に正の相関があることが分かった。また、宇宙人系と「攻撃

的」、健康・医療因子や血液型性格診断と「社会的外向」に正の相関、健康・医療因子と「非協力的」に負の相関があることが分かる。一方で、本調査前は、迷信・旧来宗教因子や霊因子と「抑うつ性大」や「気分の変化大」「神経質」との相関が現れるのではないかと考えていたが、いずれも相関係数0.1未満となり、相関はみられなかった。

YG検査の性格特性と信奉度の先行研究では、中島ら（1993）は、顕著な関係は認められなかったが、超自然現象4因子（迷信・霊・超能力・超生命文明）のうち、迷信と「帰郷性傾向（気分の変化大）」のみに有意な相関（0.24）がみられ、超自然現象全体と「攻撃性（0.17）」「社会的外向（0.17）」、迷信と「神経質」（0.17）」、霊と「攻撃性（-0.19）」、超生命文明と「非協調性（-0.17）」に有意な傾向がみられたとしている。中村（1995）は、「客観性の欠如」と「オカルト信仰全体（0.30）」で有意な正の相関、及び「心靈現象（0.26）」「超能力（0.19）」「UFO（0.29）」と正の弱い相関を示し、また「UFO」と「帰郷性（0.19）」「抑うつ性（0.23）」にも弱い正の相関が見られたことを示し、オカルト信者は、客観性に欠け、抑うつ的な気分支配されている人格特性をもっているとした。

ただ、本研究結果<表4>からは、中島ら（1993）や中村（1995）のいう相関や傾向はみられ

なかった。参考として、今回調査した超常現象全36項目とYG12項目との相関係数を後継資料2として示す。

3. 信奉度と興味関心度の比較

表5に、YG検査12項目と6項目集約版との対照表を示す。そして、表6にYG検査結果〔6項目集約版〕と、超常現象8系統それぞれの信奉度、及び興味関心度を示す。アンケートにより選ばれた興味関心の項目数は全35項目中4～21で、平均10.2である。また、「興味関心度」の算出方法は、各被験者が関心ありと○印を付けた項目数をそのまま点数化し、8系統（各3項目）ごとの合計数値（0～3点）を全数値（例：総関心項目数10の場合は10点）で除した数値を用いた。

表6から、まず8系統の全体の信奉度と、興味関心のある項目の信奉度の各平均は、5.2と6.6となり、やはり興味関心事の信奉度が高いことが分かる。

また、超常現象の系統別では、宇宙人系において、「活動的」で信奉度と興味関心度ともに正の相関が見られ、また、興味関心度において「衝動的」

「内省的でない」「主導権を握る」で正の相関、「情緒不安定」で負の相関が見られた。超能力系では、興味関心度において「衝動的」と負の相関が見られたが、信奉度ではみられなかった。血液型性格診断でも「衝動的」「主導権を握る」で、信奉度との正の相関が見られたが、興味関心度ではYG6項目との相関はみられなかった。

関心度と实在信念（信奉度）には極めて強い相関がある（遠藤 2001）と言われており、前述のように確かに興味関心事の信奉度が高いことは明らかであるが、＜表6＞からは、性格特性の面における信

表5 YG性格検査結果6項目（YG12項目を集約）

1	情緒不安定	D：抑うつ性大	C：気分の変化大
		I：劣等感大	N：神経質
2	社会的不適応	O：主観的	Co：非協調的
		Ag：攻撃的	
3	衝動的	G：活動的	R：のんき
4	活動的	Ag：攻撃的	G：活動的
5	内省的でない	R：のんき	T：思考的外向
6	主導権を握る	A：支配性大	S：社会的外向

表6 信奉度と興味関心度の違い〔YG検査6項目との相関係数〕

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
		迷信宗教系	輪廻転生系	靈感系	占い系	血液型性格診断	超能力系	宇宙人系	健康医療系		
信奉度		.020	.105	-.010	.086	-.066	-.028	.075	.011	情緒不安定	
		-.106	.059	-.105	-.018	-.107	-.016	.167 *	-.013	社会的不適応	
		.034	.063	.074	.103	.213 **	.136 *	.126	.127	衝動的	
		-.016	.062	.044	.058	.136 *	.089	.226 **	.116	活動的	
		.026	-.001	.064	.102	.154 *	.107	.041	.050	内省的でない	
		.098	.142 *	.132 *	.143 *	.266 **	.167 *	.125	.204 **	主導権を握る	
興味関心度		.179 *	.162	.114	.047	.019	-.135	-.204 *	-.112	情緒不安定	
		.071	.027	-.010	.065	-.006	-.115	.050	-.089	社会的不適応	
		.016	-.176	-.082	-.045	-.025	-.205 *	.382 **	-.004	衝動的	
		-.036	-.187 *	-.008	-.106	-.048	-.172	.370 **	.025	活動的	
		.009	-.167	-.112	.126	-.050	-.098	.315 **	-.070	内省的でない	
		-.046	-.194 *	-.029	-.164	.188 *	-.121	.260 *	.078	主導権を握る	
※	信奉度	6.4	6.6	7.4	4.6	5.6	3.8	4.5	4.2	5.2	⑧系統の 平均値
	興味の信奉度	7.2	7.3	7.5	6.0	7.1	5.4	6.1	6.0	6.6	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

■ : $r > +0.2$

□ : $r < -0.2$

※：9件法による信奉度の平均値、及び、そのうち興味関心がある者の信奉度平均値

奉度と関心度についての相関はあまり高くないことが分かった。

4. 他の性格検査との比較及び考察

(1) YG性格検査に対する批判

YG性格検査は、謹製の検査用紙の入手が容易で、自己診断がしやすいなどにより、これまで臨床や教育・産業などの日本の幅広い分野で用いられてきた。しかし、以前から、また現在でも、その尺度の構成と因子構造への批判は少なくない。

たとえば、II-2-(2)にも記したように、續ら(1970, 1971)は、120項目からなる検査項目の構造が確認されていないことを、項目の因子分析の観点から批判している。そこでは、12尺度間の相関係数を求め、その独立性や内部整合性の問題点や、1尺度(全12尺度)の最適項目数の考察がなされていないことが指摘されている。

(2) YG検査とビッグ5尺度

近年、個人の性格特性を調べる手法として、YG性格検査(YG12)、エゴグラム、UPIではなく、ビッグ5尺度(BFS5)が注目されている。

YG12とBFS5の関係について、續ら(1971)は、YG12のD抑うつ性大、C気分の変化大、I劣等感大、N神経質、O主観的、Co非協調的の6項目がBFS5のN:情動性(情緒不安定性)に対応、そして、Ag攻撃的、G活動的、Rのんき、T思考的外向、A支配性大、S社会的外向の6項目がBFS5のE:外向性に対応しており、BFS5の残り3つのA:調和性(協働性)、C:誠実性(勤勉性)、O:開放性(知性)は、YG12に対応項目はないとしている。山本ら(2010)も、BFS5とYG12のジョイント因子分析に

おいて、續ら(1971)とほぼ同様の対応を確認している。

和田(1996)は、BFS5と新性格検査の12尺度を因子分析した結果、E:外向性とO:開放性が0.482の相関がある以外は、新性格検査の12尺度がBFS5の5因子にわたった領域を測定していることを明らかにするとともに、これまでのYG12が従来から言われているとおり、N:情緒不安定性とE:外向性の二つの領域しか測定していないことを指摘している。

また、清水ら(2017a)は、YG12の次元性を、探索的因子分析と時代の異なる3つのデータの多集団同時分析から確認し、N:情緒不安定性[D, C, I, N, O, Co, そしてT(負)], N:主導性(外向性)[A, S, G, Ag, そしてI(負)], 非内省性(R, T)の3因子を抽出し、その後、清水ら(2017b)では、YG12の下位尺度の因子分析とともに適合度指標の推定を行うなど、さらにより細かい分析を行った。

(3) ビッグ5尺度と信奉度の関係

表7に、超常現象の信奉度と、本研究で行ったYG12の結果を利用したビッグ5尺度[NとE:参考(續ら1997)]等との相関係数を示す。ただし、本方法は一般的なものではないことを補記する。

表7から分かることは、BFS5のE:外向性と超常現象・疑似科学全体との正の相関があり、特に宇宙人・超生命文明因子、健康・医療因子、血液型性格診断との相関が見られた。一方で、N:神経症傾向や情緒不安定性(清水2017a)と超常現象信奉との間には、相関はみられなかった。

近年の研究を確認すると、松井(2001)は、BFS5の5尺度(外向性・神経症傾向・開放性・調和性・

表7 信奉度とビッグ5尺度等(本研究のYG検査結果を利用)の相関係数

性格特性	6因子 ⑧系統	6因子						⑧系統								
		1	2	3	4	5	6	6因子 全35項目 平均	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
		迷信・ 旧来宗教	霊	占い・ 予知	超能力	宇宙人・ 超生命 文明	健康・ 医療		迷信 宗教	輪廻 転生	靈感	占い	血液型 性格診断	超能力	宇宙人	健康 医療
ビッグ 5尺度	N:神経症傾向	.021	.012	.016	-.060	.078	-.121	-.012	-.019	.094	-.052	.046	-.096	-.034	.082	-.016
	E:外向性	.112	.094	.161 *	.153 *	.206 **	.231 **	.221 **	.050	.089	.101	.125	.229 **	.149 *	.155 *	.156 *
清水 (2017)	情緒不安定性	.018	.016	.013	-.062	.069	-.111	-.012	-.018	.095	-.053	.039	-.100	-.038	.078	-.005
	主導的	.085	.079	.115	.132 *	.193 *	.251 **	.197 *	.017	.065	.075	.070	.202 **	.127	.153 *	.161 *

** p < .01, * p < .05, † p < .10

■ : r > +0.2

□ : r < -0.2 …今回調査結果:なし

* 5宇宙人・超生命文明は、地球外知の生命体を除いた5項目

誠実性)と不思議現象信奉度の偏相関を調べ、「神経症傾向」「開放性」「外向性」と有意な正の偏回帰係数を示し、結論のひとつとして、不思議現象の信奉の背後には不安が存在することを指摘している。また、小城ら(2008)は、占い・呪術嗜好性と「神経症傾向」、スピリチュアリティ信奉と「外向性」「神経症傾向」、恐怖信奉と「神経症傾向」、霊体験と「開放性」に中程度の正の相関があること、また懐疑信奉は、「外向性」「神経症傾向」と負の相関(有意だが数値は低い)があることを示した。そこでは、好奇心が強く独創性を追求する人ほど、霊的な現象を主観的に体験する傾向が強いことが推測されるとしている。諸井ら(2014)は、いずれの超常現象観もBFS5と有意な関連があり、占い信奉・反科学信奉と「神経症傾向」、占い信奉・吉凶信奉と「外向性」、未知存在信奉・反科学信奉と「開放性」、占い信奉(負)と「調和性」、科学信奉と「誠実性」との影響が認められたとしている。

このように、他の研究結果の多くは、超常現象信奉度と「E:外向性」との関係とともに、「N:神経症傾向」とも関係性が認められるとしているが、本研究調査結果をBSF5に対応した場合、前述のように、後者とは有意な相関が見いだせなかった。

IV. 結語

1. 科学リテラシーの重要性

我々は、自己が関与しない限り、無関心で無責任な態度に終始する傾向があり、そして、俗信の対極には常に科学が存在する。そこでは、科学の成果をただ享受するのではなく、科学的な態度やものの考え方を真に身につけることが重要となる(野村 1989)。

例えば、「手からのエネルギー」や「霊能力」について検証を全く経ないで扱ってしまう点が大いに問題であり、時には科学を超越した神秘的な力であると解釈が飛躍する(菊池ら 1995)場合がある。不思議な現象が好きな人々は、与えられた情報を無批判に信じ込んでしまう。つまり、「思考停止的」な考え方が一般的で、このことこそが、若者文化としての不思議現象を語る上で重要な点であり、そして、信じる心は、ときに私たちの合理的な思考をさ

またげる(菊池ら 1995, 1998)と考えられる。

2. 五感の危うさ

超常現象、不思議現象は、信頼性と妥当性に欠けるものであり、そこでは、「五感と記憶の曖昧さ(危うさ)」をもっと認識すべきである(菊池ら 1998)と指摘されている。人が見たものや聞いたものはすべて正しい訳ではなく、またその記憶も時間とともに変化していくことを忘れてはならない。科学では、五感という「不純物」による情報伝達を排除した環境で実験・確認をする必要があり(森田 2009)、また、言うまでもなく、「再現性」のないものは、科学や理論と呼ぶことはできない。

3. 教育の大切さ

中島ら(1993)は、超自然現象を信じるのが社会にとって有害であれば、無批判に取り上げるマスコミの姿勢を改めさせる必要性とともに、教育によって批判的思考・客観的態度を身につけさせることができるとしている。そこで、やはり教育が大切となってくるが、一方で、教育を直接担う教員の方が生徒より、超常信奉に関する質問の約3割で、肯定率が高いこと(菊池 2013)も示された。

また、織原ら(2012)は、理数系教員志望の大学生において、心霊現象や超能力、血液型占いの否定派が半数以下であることを指摘し、教員養成課程における科学リテラシー教育の在り方を考え直す必要性に言及している。

4. クリティカル・シンキングへ

中村(1995)は、オカルトに対するイメージを、教育によって合理性をもった信念に転化させ、より肯定的な社会観や世界観が生成できるとしている。そして、高度情報化社会のなかで情報の受容者として最も必要なものは、情報を批判的に見る目を育てる教育「クリティカル・シンキング」であり(菊池ら 1995)、非合理の存在を感じ取る心を養うためには、超常現象や疑似科学は良い材料になる(Tシツク 2004・池内 2008)と言われている。また、批判的思考は、単なる批判ではなく、論理的で内省的な思考を含む思考と定義され、ビジネスの領域では「ロジカルシンキング」という言葉としても使われ

ており(楠見ら 2011), 目指すべきことは, 良き市民や良き学習者を育てることにある。

今日, 情報リテラシーやデータサイエンスが注目され, その重要性に異論はないが, それらとともに, 今後は一層, 科学と非科学を見分ける批判的かつ論理的思考力を教育の場で伝え, 醸成していきたいと考える。

註

¹ 現代の科学で説明できない現象を指し示す表現は, 「超常現象Paranormal phenomena」(Tobacyk 1983) (岩永ら 1998) (坂田ら 1998) (諸井ら 2014) (石川 2014) (梅原ら 2014), 「超自然現象Supernatural phenomena」(中島 1993), 「不思議現象 Mysterious (Paranormal) phenomenon」(菊池 1995) (安斎 2001) (松井 2001) (遠藤 2002) (小城ら 2008) (川上 2016), 他に「神秘現象」(井上 1996), 「俗信」(伊藤 1997), 「非合理現象」(丹治ら 1997), 「非科学」(安斎 1998) など, 多岐にわたっている。

また, 近年, 科学的で事実に基づいていると主張しているにもかかわらず, 科学的方法と相容れない現象や言明は, 「疑似科学 Pseudoscience」(池内 2008) (森田 2009) (菊池 2017・2019) (菊池ら 2019) (山本 2019) と呼ばれることが多い。一部は似非科学やニセ科学と称されることもある。

このように, 同一と見なされる事象も研究者によって定義が微妙に異なり統一された用語はないため, ここでは, 先行研究に多く使用され, 日頃目や耳にすることの多い「超常現象」を主に用い, 事象により「疑似科学的事項」を適宜加えて用いることとする。

² 相関係数は, ① 0~0.3未満: ほぼ無関係, 0.3~0.5: 非常に弱い相関, 0.5~0.7: 相関がある, 0.7~0.9: 強い相関, 0.9以上: 非常に強い相関, ② 0.2~0.4: 弱い相関, 0.4~0.7: 相関がある, 0.7以上: 強い相関あるなど, 0.7以上は強い相関があると言えるが, 低い数値では判断基準にややばらつきがある。

超常現象信奉度と性格特性についての先行研究

では, 中村(1995)・水野(1996)・松井(2001)・河戸(2002)・小城(2008)・諸井(2014)・菊池(2019)等で, 数値0.2以上を相関あり, または中程度の相関とし, 0.15程度も相関ありとしているものもみられ, これまで信奉度と性格特性での0.3を超えた相関係数は稀である。したがって, 本研究では②を用い, 0.2~0.4で「相関がある」と表すこととする。

³ p値は, 「帰無仮説の下でその事象が起こる確率(Probability)」を表し, 有意水準>P値の場合, 帰無仮説を棄却し, 有意差ありと判断する。有意水準は5%に設定されることが多いが, 厳しい基準の場合には1%に設定されることもある。

引用文献及び参考文献

- 續有恒・織田揮準・鈴木真雄(1970) 質問型式による性格診断の方法論的吟味 教育心理学研究18(1), 33-47
- 續有恒・織田揮準・鈴木真雄(1971) 質問型式による性格診断の方法論的吟味: II-YG性格検査の洗練の試み-教育心理学研究19(2), 85-97
- Tobacyk, J.J. & Milford, G. (1983). Belief in paranormal phenomena: assessment instrument development and implications for personality functioning. *Journal of Personality and Social Psychology*, 44, 1029-1037.
- 野村昭(1989) 俗信の社会心理 勁草書房
- 中島定彦・佐藤達哉・渡邊芳之(1993) 超自然現象 信奉尺度の作成 *Journal of the Japan Skeptics*, 2, 69-80.
- 松井豊・上瀬由美子(1994) 血液型ステレオタイプ の構造と機能 *聖心女子大学論叢*82, 89-111
- 菊池 聡・谷口高士・宮元博章(1995) 不思議現象. なぜ信じるのか-こころの科学入門 北大路書房
- 中村雅彦(1995) 大学生のオカルト信仰に関する研究-オカルト信者の社会心理的特性と超心理教育による社会観の変容- *愛媛大学教養部紀要*28(1), 29-55.
- 井上順孝(1996) 学生における宗教および超常現象・神秘現象への関心 *国学院大学日本文化研究所紀要*, 78, 25-65.

- 和田さゆり (1996) 性格特性用語を用いたBig Five 尺度の作成 心理学研究67-1, 61-67.
- 高橋啓介 (1996) 女子青年層の超常現象受容傾向とマスメディア環境 愛知淑徳短期大学研究紀要第35号, 27-49.
- 水野博介・辻大介 (1996) 大学生における宗教意識・オカルト関心と情報行動-理系・文系学生における調査結果の比較-埼玉大学紀要(埼玉大学教養学部編), 32, 1-22.
- 丹治哲雄・青木忠明 (1997) 非合理現象信奉尺度の作成-その信頼性と妥当性の検討(第1報)-文教大学生生活科学研究所生活科学研究
- 伊藤哲司 (1997) 俗信はどう捉えられているか-「俗信を信じる」ことのモデル構成に向けて-茨城大学文学部紀要(人文学科論集), 30, 1-31.
- 村上宣寛・村上千恵 (1997) 主要5因子性格検査の尺度構成 性格心理学研究第6巻第1号, 29-39.
- 岩永誠・坂田桐子 (1998) 超常現象に対する肯定的信念の形成に関する研究(1)-個人要因の影響- 広島大学総合科学部紀要Ⅳ理系編24, 75-85.
- 坂田桐子・岩永誠 (1998) 超常現象に対する肯定的信念の形成に関する研究(2)-社会・心理的要因の影響- 広島大学総合科学部紀要Ⅳ理系編24, 87-97.
- 安斎育郎 (1998) 人はなぜ騙されるのか-非科学を科学する-朝日新聞社
- 菊池聡 (1998) 超常現象をなぜ信じるのか-思い込みを生む「体験」のあやうさ- 講談社ブルーバックス
- 松井豊 (2001) 不思議現象を信じる心理的背景 筑波大学心理学研究23,67-74.
- 齊藤崇子・中村知靖・遠藤利彦・横山まどか (2001) 性格特性用語を用いたBig Five尺度の標準化 九州大学心理学研究2, 135-144.
- 遠藤由美 (2001) 不思議現象に対する若者の関心・実在信念の構造 奈良大学総合研究所所報 93-104.
- 安斎育郎 (2001) 不思議現象の正体を見破る 河出書房新社
- 安斎育郎 (2002) 霊はあるか-科学の視点から- 講談社ブルーバックス
- 河戸裕美 (2002) 超常現象を信じる心について-占いを志向する個人内要因より検討- 三重大学教育学部人間発達科学課程卒論299707
- 神館広昭 (2003) 俗信や超自然現象を信奉する要因に関する研究-高校生と高齢者を比較して-聖マリアンナ医学研究誌, 78, 5-62.
- Tシックジュニア・Lヴォーン〔著〕菊池聡・新田玲子〔訳〕(2004) クリティカル・シンキング-不思議現象編- 北大路書房
- 今泉寿明 (2004) 精神健康度は超常現象信奉と相関しない 超心理学研究第9巻第1・2号 第37回日本超心理学学会大会発表論文抄録
- 安斎育郎 (2005) だます心 だまされる心 岩波新書
- 小城英子・坂田浩之・川上正浩 (2008) 不思議現象に対する態度:態度構造の分析および類型化 社会心理学研究23, 246-258.
- 池内了 (2008) 疑似科学入門 岩波書店
- 森田邦久 (2009) 科学と疑似科学を分ける2つの基準 科学哲学 42-1, 1-14
- 山本理恵・清水和秋 (2010) Big FiveとYG性格検査の関係性の探索-Big Five形容詞短縮版とYGのジョイント因子分析から- 日本心理学会第74回大会発表要旨
- 唐沢かおり (2010) 情報処理スタイルが不思議現象の信じやすさに及ぼす影響 Journal of Human Environmental Studies, Volume 8, Number 1
- 楠見孝・子安増生・道田泰司〔編著〕(2011) 批判的思考力を育む-学士力と社会的基礎力の基盤形成-有斐閣
- 織原義明・鴨川仁 (2012) 理数系教員志望大学生の科学リテラシー-宏観異常現象と超常現象, 血液型占いに関する意識調査より- 東京学芸大学紀要自然科学系, 64, 31-36.
- 菊池聡 (2013) 学校教員と生徒の超常信奉と科学への態度 日本教育心理学会第56回大会発表論文集, 288.
- 石川幹人 (2014) 「超常現象」を本気で科学する 新潮新書
- 梅原勇樹・菊田章 (2014) NHKスペシャル 超常現象-科学者たちの挑戦- NHK出版
- 諸井克英・早川沙耶・板垣美穂 (2014) 女子大学生

- における超常現象観の基本的構造 同志社女子大学生生活科学, Vol.48, 13-24.
- 諸井克英・早川沙耶・板垣美穂 (2016a) 女子大学生における超常現象観の基本的構造 同志社女子大学生生活科学Vol.48, 13-24
- 諸井克英・徳光祐衣・板垣美穂 (2016b) 女子大学生における超常現象観の基本的構造 (Ⅱ) - 超常現象観におよぼす日常的思考スタイルの影響 - 同志社女子大学学術研究年報第67巻, 69-78
- 川上正浩 (2016) 本学心理学科学生の性格特性 - ビッグファイブを用いて - 臨床心理学専攻・附属カウンセリングセンター研究紀要第10巻, 111-122.
- 菊池聡 (2017) 中学高校生の疑似科学信奉と科学への態度の関連性 信州大学人文科学論集, 4, 11-24.
- 清水和秋・山本理恵 (2017a) YG性格検査の因子の構造 - 多集団同時分析による3次元構造の確認 - 関西大学社会学部紀要第48巻第2号, 1-25.
- 清水和秋・山本理恵 (2017b) YG性格検査の12尺度の内部構造 - カテゴリー因子分析のBifactor Geomin回転 - 関西大学社会学部紀要第49巻第1号, 1-31.
- 菊池聡・佐藤広英 (2019) Twitter利用と疑似科学信奉との関連 信州大学人文科学論集, 第7号 (第2冊), 71-86.
- 菊池聡 (2019) 疑似科学信奉の多面性と批判的思考の関連性 日心第83回大会発表論文抄録
- 山本耕平 (2019) 疑似科学への態度の規定要因に関する諸仮説の検証 - 科学知識・剥奪・権威主義 - 年報科学・技術・社会, 第28巻, 25-46.
- LJIレイノルズ・Bジャッジ・Eマックリーリー・Pジョーンズ [著] 楠見孝・田中優子 [訳] (2019) 大学生のためのクリティカル・シンキング 北大路書房
- 諸井克英・大島有梨沙 (2020) 女子大学生における超常現象観の基本的構造 (Ⅲ) - 超常現象観, 宗教意識, および宗教行動との関連 - 同志社女子大学学術研究年報第 71巻, 103-114
- NHK放送文化研究所 [編] (2020) 現代日本人の意識構造 [第九版] NHKBOOKS
- ジョナサン・ヘイバー [著] 若山昇 [監訳] 寺上隆一 [訳] (2022) 基礎から分かるクリティカル・シンキング ニュートン新書
- 織田潤二 (2023) 超常現象や疑似科学的事項の信奉度及び関心度に関する研究 - 先行研究及び確認的因子分析による下位尺度の考察 - 香川短期大学紀要第51巻, 37-50.
- [統計分析]
- 清水裕士 (2014) エクセルで統計分析 2 HADの使い方 基礎編 広島大学大学院総合科学研究科 file:///C:/Users/staff/Downloads/hadmanual2-140507195248-phpapp01%20(1).pdf (2023年11月8日最終閲覧)
- 横田晋大 (2014) HADの使い方 (初心者向け) 総合研究大学院大学 1-67. https://norimune.net/wp/wp-content/uploads/2016/04/HAD_UsersGuide_for_beginners_2.pdf (2023年11月12日最終閲覧)
- 小宮あすか・布井雅人 (2018) Excelで今すぐはじめる心理統計 - 簡単ツールHADで基本を身につける - 講談社
- 清水裕士 (2021) Excelを使った分散分析 (HAD) マニュアル User Life Science <https://userlife.science/clinical/clinical-manuals/had-manual/> (2023年11月12日最終閲覧)

添付資料1 用いたアンケート用紙

アンケート調査用紙

*下記のアンケート結果を研究のために活用します。

ただし、本アンケートは無記名であり、当然成績評価に影響するものではありません。また提出は任意です。

1. あなたの年齢と性別を書いてください。

年齢	歳	性別	男	女
----	---	----	---	---

留学生	<input type="checkbox"/>
印	<input type="checkbox"/>

2. 次の文章・設問について、以下を参考に、9～1の数字に○をつけてください。

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない				
9	8	7	6	5	4	3	2	1

3. 以下の文章・設問について、あなたが興味・関心があるもの記号（ア～ヤ）に○印をつけてください。

↓ ↓ * ○をつける数の目安は全体の1/3～2/3（12～24個）としてください。

該当するものに○をつける	文章・設問									
ア	9	8	7	6	5	4	3	2	1	神社などにお参りすると願い事がかなう
イ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	死者の霊は存在する
ウ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	占星術や四柱推命などの、本やテレビの占いはよく当たっている
エ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	念力で物体を動かしたり曲げたりすることができる人がいる
オ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	UFOは実在する
カ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	マイナスイオンは健康により効果がある
キ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	お守りやお祓いには効力がある
ク	9	8	7	6	5	4	3	2	1	体は死んでも魂は生き続ける
ケ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	手のひらの生命線が長いと長生きする
コ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	透視ができる人がいる
サ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	政府は宇宙人に関する事実を隠している
シ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	コラーゲンを経口摂取すると肌により効果がある
ス	9	8	7	6	5	4	3	2	1	仏滅に結婚式を行うのはよくないことである
セ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	輪廻転生（生まれ変わり）はある
ソ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	タロットカード（西洋）や易（東洋）による占いはよく当たる
タ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	テレパシーは存在する
チ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	UMA（未確認生物：ビッグフット・ネッシー・ツチノコなど）は実在する
ツ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	「よい言葉や音楽」により、水の結晶が変化したり植物がよく育つようになる
テ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	悪い事をしたり、神仏に不敬を働くとばちがあたる
ト	9	8	7	6	5	4	3	2	1	いわゆる「心靈現象（含：写真・動画）」は本当にある
ナ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	血液型による「性格診断」は当たっている
ニ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	未解明のエネルギーを使える人がいる
ヌ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	古代文明には宇宙人が関係している
ネ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水晶や特別な鉱石を身に付けると、健康により効果がある
ノ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	極楽（天国）や地獄は存在する
ハ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	いわゆる「霊能力・靈感」は存在する
ヒ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	未来を予測・予言できる人がいる
フ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	「気」などの精神の力で病気を治すことのできる人がいる
ヘ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	ムー大陸やアトランティス大陸は存在した
ホ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	現代の医学以外に、ガンを治せる特別な治療法が存在する
マ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	呪いやたたりは存在する
ミ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	前世や来世は存在する
ム	9	8	7	6	5	4	3	2	1	夢が現実になるのは予知能力の1つである
メ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	指や皮膚で、物の色や文字が分かる人がいる
モ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	地球以外の星に知的生命体は存在する
ヤ	9	8	7	6	5	4	3	2	1	特別な「水」には、人を健康にしたり病気を治したりする効果がある

3. 『YG検査』の結果のみを記入してください。氏名などを書く必要はありません。

点数（資料p2の0～20の数値）

D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
---	---	---	---	---	----	----	---	---	---	---	---

系統値（資料p3の各系統値の数値）

E	C	A	B	D
---	---	---	---	---

判定		型
----	--	---

添付資料2 アンケート36項目とYG検査結果12項目・A～E系統値の相関係数

YG 検査結果	6因子 ⑤系統	1 旧来宗教・迷信						2 霊						3 占い・予知					
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6
		神への 願い事	お守り お祓い	仏滅の 結婚式	ばちが あたる	極楽と 地獄	呪いや たたり	死者の霊	魂の存在	輪廻転生	心霊現象	霊能力 ・霊感	前世と 来世	占星術	手相	タロット カード	血液型 性格診断	予言	予知夢
①迷信 宗教系	①迷信 宗教系		①迷信 宗教系	②輪廻 転生系		③霊感系		②輪廻 転生系	③霊感系	③霊感系	②輪廻 転生系	④占い系	④占い系	④占い系	⑤血液型				
1 D抑うつ性大		-.081	-.094	-.017	-.006	.045	-.052	.045	-.014	.099	-.073	-.098	-.027	-.006	-.008	-.073	-.129	-.028	.014
2 C気分の変化大		-.004	.058	.007	-.048	.091	.103	.057	.049	.142*	.053	.018	.102	.143*	.019	.132*	-.012	-.004	.016
3 I劣等感大		.117	-.027	-.029	.081	.108	.075	.088	.019	.091	-.026	.027	.091	.047	.061	.111	-.040	-.013	.157*
4 N神経質		.054	-.022	.033	.033	.042	.070	-.076	-.045	.117	-.059	-.033	.035	.093	.032	.036	-.034	.057	.059
5 O主観的		-.027	-.034	-.087	-.009	.040	.067	.026	.057	.144*	-.141*	-.114	.115	.030	-.068	.066	-.126	.013	.140*
6 Co非協動的		-.134*	-.173**	-.012	-.092	-.030	.035	-.074	.005	.054	-.146**	-.211**	-.082	-.117	-.110	-.016	-.145**	-.089	.018
7 Ag攻撃的		-.066	.002	.118	-.045	-.001	.099	-.018	.075	.084	.089	-.061	.037	.038	.002	.106	.014	.064	-.011
8 G活動的		-.027	.078	.098	.003	.012	.044	-.031	-.010	.052	.111	.088	.076	.043	.011	.023	.206**	.106	-.049
9 Rのんき		-.028	.079	.060	.038	.008	-.010	-.039	-.056	.072	.183*	.012	.060	.133*	.060	.139*	.162*	.021	.008
10 T思考的外向		.020	.043	-.018	-.057	.041	-.017	.020	-.036	-.103	.107	-.030	-.095	.076	-.083	.065	.080	-.046	-.029
11 A支配性大		.055	.122	.237**	.092	.180*	.152*	.093	.063	.137*	.190*	.170*	.091	.127	.138*	.187*	.271**	.139*	-.077
12 S社会的外向		-.014	.079	.167*	.114	.095	.071	-.044	.027	.097	.163*	.084	.067	.034	.053	.099	.225**	.122	.032
E 系統値		.048	-.061	-.130*	-.013	.048	.072	.036	.008	.017	-.116	-.058	-.001	.035	.029	-.009	-.128	-.060	.082
C 系統値		.079	-.093	-.149*	-.058	-.065	-.046	-.048	-.070	-.218**	-.095	.001	-.066	-.052	-.016	-.203**	-.121	-.107	-.055
A 系統値		-.033	.106	.076	.055	-.072	-.158*	.007	.040	.026	.051	.011	.002	.107	-.031	.019	-.021	.060	-.016
B 系統値		-.035	-.016	.055	-.001	.116	.175*	.034	.022	.156**	.032	-.011	.053	.135*	.040	.149*	.117	.035	.059
D 系統値		-.031	-.019	.095	-.033	.004	.051	-.051	-.045	-.045	.100	.063	.000	.053	-.008	-.007	.180*	.022	-.088

YG 検査結果	6因子 ⑤系統	4 超能力						5 宇宙人・超生命文明						6 健康・医療					
		4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	5-1	5-2	5-3	5-7	5-5	5-6	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6
		念力	透視	テレパシー	未解明エ ネルギー	気	眼以外の 文字認識	UFO	宇宙人の 隠蔽	UMA	古代文明と 宇宙人	ムー大陸	地球外知 的生命体	マイナス イオン	コラー ゲン	言葉や 音楽効果	水晶 パワー	特別な ガン治療	特別な水
⑥超能力 系	⑥超能力 系	⑥超能力 系				⑦宇宙人 系	⑦宇宙人 系		⑧宇宙人 系			⑨健康 医療系			⑩健康 医療系		⑩健康 医療系		
1 D抑うつ性大		-.024	-.032	-.061	-.027	.001	-.046	.045	.087	.041	.091	.047	.114	-.016	-.165*	-.174*	-.026	-.031	-.013
2 C気分の変化大		.067	-.009	-.001	-.003	-.090	-.054	.033	.164*	.162*	.173*	.071	.160*	.012	-.060	-.115	.063	.012	.082
3 I劣等感大		-.016	.094	.041	-.100	.051	-.046	-.049	.037	-.030	.022	-.093	-.049	-.010	-.079	-.244**	.003	-.088	-.063
4 N神経質		.017	-.014	-.052	-.064	-.091	-.092	-.005	.017	.089	.037	-.015	.116	.028	-.059	.153*	.122	-.019	-.056
5 O主観的		-.020	.044	-.008	-.035	-.084	-.006	.025	.193*	.051	.156*	.111	.181*	-.040	-.215**	-.119	.045	-.035	.003
6 Co非協動的		-.120	-.060	-.048	-.085	-.122	-.055	-.128	.076	.002	.068	-.025	.056	-.045	-.141*	-.266**	-.067	-.053	-.209**
7 Ag攻撃的		.017	-.072	.100	.057	-.019	-.006	.139*	-.210**	.267**	.205**	.214**	.253**	.047	-.017	-.010	.110	.030	.084
8 G活動的		.014	-.008	.103	.160*	.000	.110	.062	.100	.143*	.169*	.111	.054	.123	.252**	.167*	.030	.120	.041
9 Rのんき		.125	.058	.131*	.118	.047	.112	.036	.068	.209**	.101	.163*	.133*	.142*	.073	.120	.064	.072	.110
10 T思考的外向		.105	-.048	.072	.068	-.028	.012	.004	-.038	.093	-.013	-.022	-.015	-.071	.054	.149*	-.102	-.038	.023
11 A支配性大		.170*	.037	.156*	.255**	.141*	.167*	.090	.066	.200*	.167*	.127	.092	.189*	.242**	.143*	.109	.215**	.275**
12 S社会的外向		.015	.000	.134*	.179*	.103	.081	.094	-.017	.112	.138*	.050	.112	.077	.234**	.184*	.087	.112	.143*
E 系統値		-.042	.056	-.052	-.149*	-.074	-.094	-.006	.021	-.062	-.038	-.091	-.004	-.060	-.104	-.231**	-.006	-.055	-.064
C 系統値		-.020	.045	-.034	-.128	-.001	.037	-.052	-.150*	-.209**	-.179*	-.106	-.176*	-.069	.014	-.030	-.037	.000	-.012
A 系統値		-.054	-.051	-.062	.046	.025	-.062	-.040	.012	-.040	.005	.050	-.068	.059	-.108	.123	.001	-.088	-.083
B 系統値		.064	.008	.082	.065	-.021	.024	.077	.112	.205**	.142*	.043	.203**	.005	.083	-.082	.029	.077	.082
D 系統値		.102	-.024	.122	-.147*	.070	.175*	.044	-.036	.113	.042	.070	.066	.023	.229**	.180*	.006	.148*	.155**

** p < .01, * p < .05, . p < .10

■ : r > +0.2

■ : r < -0.2